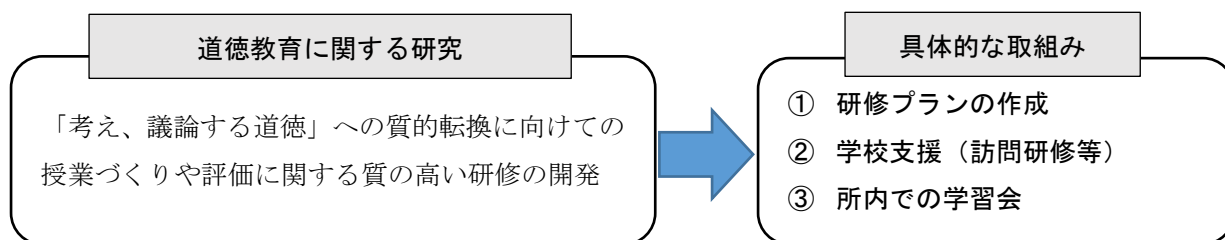


「考え、議論する道徳」への質的転換に向けて支援する研修開発

教科研究センター 小中学校教科研究課 道徳プロジェクトチーム

ハウカ佐由里 近藤伸彦 平山由佳 品野由香里

小学校では平成 30 年度、中学校では平成 31（令和元）年度から、道徳が教科化され「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）が始まった。授業づくりにおいて「考え、議論する道徳」への質的転換が求められる中、福井県教育総合研究所（以下、本所）においても、道徳教育の研究体制を整え、質の高い研修の開発が急務と考えた。そこで、道徳プロジェクトチームを立ち上げ、道徳教育に関する研究および研修の開発に取り組んだ。また、所内で道徳教育に関する学習会を行い、他のセンターの所員とともに道徳科の授業づくりや研修開発を進めていった。今年度の研究の具体的な取組みと成果、課題について以下に報告する。



① 研修プランの作成

各学校からの要請訪問研修や所内での研修講座で道徳の研修を行う際の、研修（研修プラン 1、研修プラン 2）を開発した。それぞれの内容項目を次頁に示す。

研修プラン 1 は、グループ演習で教科用図書を用いた授業づくりを重視した構成になっている。グループ演習を行うことで講義の内容の理解を深めるねらいがある。また、グループ演習で意見交換をすることで、新しい考えに出会うことができるなど、より効果的な研修になると考えた。演習は 1 グループ 4～6 名で教材を使い、授業の「ねらい」を基に「指導の明確な意図」「中心発問」「振り返りの発問」を考える。

「ねらい」とは、内容項目を基にした育成したい道徳性のことであり、「指導の明確な意図」とは、ねらいとする道徳的価値を理解し、児童生徒の実態を基に教材をどのように活用し、何を考えさせたいのかを明らかにしたものである。「中心発問」とは、ねらいとする道徳的価値の本質に迫るきっかけをつくる発問であり、「振り返りの発問」とは、ねらいとする道徳的価値との関わりで、自己を見つめたり、教材を見つめ直したりするための発問である。授業づくりにおいては、これらの「ねらい」「指導の明確な意図」「中心発問」「振り返りの発問」に一貫性があることが大切である。このような学習展開を考える演習が、普段の授業づくりに生かされると考えた。

研修プラン 2 は、評価のみに特化した構成になっている。このプランは、研修プラン 1 を実施した学校の教員から「評価に関する話をもう少し詳しく聞きたかった」という要望がいくつかあったため、作成したものである。このプランでも評価文を添削するグループ演習を取り入れている。

研修プラン 1 は 90 分、研修プラン 2 は 45 分で構成されているが、研修時間や学校が特に力を入れたいと考えている内容など要望に合わせて、研修の構成を考え対応した。

研修プラン1 (90分)

1 「特別の教科 道徳」の概要 (10分)

- ・道徳教育の充実が求められる背景
- ・「考え、議論する道徳」への質的転換の必要性

2 道徳科の授業づくりについて (20分)

- ・授業づくりにおける4つのポイント
 - ① 児童生徒の実態を踏まえた指導の明確な意図
 - ② 児童生徒に問題意識をもたせる手立て
 - ③ 自分との関わりで考えさせる手立て
 - ④ 多面的・多角的に考えさせる手立て
- ・所員による模擬授業

3 授業づくり (グループ演習) (50分)

- ① 教科用図書の教材を使用し、授業の「ねらい」を基に、「指導の明確な意図」、「中心発問」、「振り返りの発問」をグループで話し合い、ホワイトボードに記入 (40分)
- ② 発表・共有 (10分)

※教材は、本所の研修担当が小学校（低学年、中学年、高学年）、中学校（第1学年、第2学年、第3学年）対象のものを準備する。市町によって採用している教科用図書が異なるため、訪問する学校が使用している教科用図書の教材を選定する。また、研修内容を授業にすぐに生かせるよう、研修日以降に先生方が授業で使用する予定の教材を選定する。なお、演習で使用する教材は事前に一読してから研修に臨んで頂く。

4 道徳科に求められる評価について (10分)

- ・道徳科での評価の7つのポイント
 - ① 数値による評価でなく、記述式とする。
 - ② 道徳科の授業での学習状況や成長の様子を適切に把握する。
 - ③ 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえる。
 - ④ 児童生徒がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価をする。
 - ⑤ 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視する。
 - ⑥ 発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況を踏まえた指導および評価上の配慮を行う。
 - ⑦ 調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする。
- ・道徳科の評価方法
- ・指導要録や通知表の記述による評価例
- ・組織的、計画的な評価の推進例

研修プラン2 (45分)

1 道徳科に求められる評価の概要 (10分)

- ・教育活動全体で行う「道徳教育」と、それをより補充・深化・発展させる「道徳科」
- ・学習指導要領を踏まえた評価方法や評価例
- ・「指導」と「評価」の一体化

2 通知表における評価文例 (10分)

- ・指導要録における評価と通知表における評価の違い
- ・通知表での NG 文例とその改善の方向性

3 自分が作成した評価文の添削 (グループ演習) (20分)

- ・受講者が作成した児童・生徒の評価文の内容や書き方の検討

※研修プラン1の「道徳科での評価の7つのポイント」を踏まえ、児童生徒を認め、励まし、保護者の理解や協力が得られるような記述になっているかを検討する。

4 他校の実践例 (5分)

- ・道徳科における評価の研究を行っている学校の取組みの紹介

② 学校支援

○研修実践一覧

日	学校等	参加人数	内容 (グループ)	時間
5月24日	坂井市立三国南小学校	1名	指導案検討	60分
7月31日	福井市鶉小学校	12名	研修プラン1 (低・中・高学年)	120分
7月31日	福井市鷹巣中学校校区 幼・小・中学校	24名	研修プラン1 (低・高学年・中学)	120分
8月1日	越前町立朝日中学校	20名	研修プラン1 (1年・2年・3年)	90分
8月5日	鯖江市鯖江東小学校	16名	研修プラン1 (低・高学年)	120分
8月7日	勝山市立勝山北部中学校	11名	研修プラン1 (1年・2年・3年) +評価に関するグループ協議	90分
8月8日	勝山市立勝山中部中学校	14名	研修プラン1 ※演習なし	50分
8月21日	永平寺町松岡中学校	20名	研修プラン1 (1年・2年・3年)	90分
8月26日	鯖江市鳥羽小学校	22名	研修プラン1 (低・中・高学年)	90分
8月27日	越前市白山小学校	9名	研修プラン1 (低・中・高学年)	120分
9月17日	あわら市芦原中学校	20名	研修プラン1 (1年・2年・3年)	50分
10月23日	臨時任用講師講習	57名	研修プラン1 (幼・小・中・特支・ 高等学校)	50分

実践例

7月31日 13時30分～15時30分 (120分)

鷹巣中学校校区（長橋小、鷹巣中、鷹巣小、鷹巣幼の教諭24名が、鷹巣中学校に集まり研修を行う）

- | | | | |
|---|------|--------------------------|-------|
| 1 | はじめに | 鷹巣幼小中学校長挨拶 | (5分) |
| 2 | | 「特別の教科 道徳」の概要と授業づくりのポイント | (35分) |
| 3 | | 授業づくり（グループ演習） | (60分) |
| 4 | | 評価について | (15分) |
| 5 | おわりに | 長橋小学校長挨拶 | (5分) |



<小学校>

ねらい：正しいと判断したことは自信をもって行おうとする態度を育てる。

教材：「いっしょになって、わらっちゃだめだ」

出典 新しい道徳 小学校4年（東京書籍）

主題名：けじめのある生活 A-(3)節度、節制

【グループごとの発表例】

指導の明確な意図

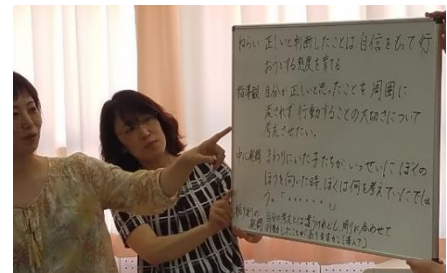
周囲に流されず、自分が正しいと思ったことを行動することの大切さについて考えさせたい。

中心発問

まわりにいた子たちが、いっせいにぼくの方を向いた時、ぼくは何を考えていたでしょう。

振り返りの発問

自分の考えとはちがうけれども、周りに合わせて行動したことがありますか。



指導の明確な意図

人に流されることなく、自分にできることは何かを考えさせたい。

中心発問

どうしてぼくは、だまって教室を出ていったのでしょうか。

振り返りの発問

日々の生活の中で、周りに流されることなく、自分の意見を通したことはありますか。

<中学校>

ねらい：偏見を正し、正義を貫こうと決意する主人公の姿に共感することを通して、正義を重んじ、偏見や差別をなくしていこうとする態度を育てる。

教材：「ヨシト」

出典 あすを生きる 中学校2年（日本文教出版）

主題名：いじめへの公正な態度 C-(11)公正、公平、社会正義

【グループごとの発表例】

指導の明確な意図

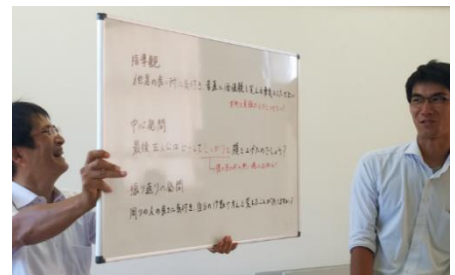
他者への思いやりを欠いた同調が、いじめに発展することに気付かせたい。

中心発問

「僕」はどんな気持ちから回ってきた紙切れを握りしめたのでしょうか。

振り返りの発問

日常生活で思いやりを欠いた同調をしたことがありますか。これからはどうしたいですか。



指導の明確な意図

他者の良い所に気付き、素直に価値観を変える勇気をもたせたい。

中心発問

最後に主人公はどのようにしてしっかりと顔を上げたのでしょうか。

振り返りの発問

周りの人の良さに気付き、自分の行動や考えを変えたことがありますか。

<受講者の感想>

- ・他のグループとの比較があったことで、教材のもつ可能性を感じることができた。
- ・ねらいとする道徳的価値をずらすことなく、一貫した授業を組み立てることの大切さを感じた。
- ・経験年数やクラスの実態などによって、「指導の明確な意図」が異なってくるのが分かり、グループ演習を行うことで多様な考え方に触れることができてよかった。

○研修を実施しての感想

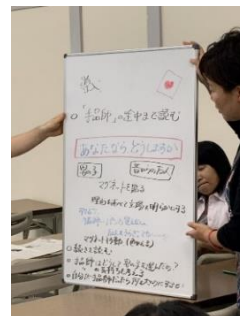
訪問研修に関するアンケートでは、「研修の総合的な満足度はどうだったか。」という設問に対して、演習を行った場合の受講者の評価は、4点満点中平均3.8点であった。しかし、演習を行わない内容で研修を行った場合の評価は、平均3.4点であった。このことから、グループ演習では、講義内容の理解を深めることだけでなく、一つの教材を用いて数人で授業づくりについて話し合うことが、研修構成として重要であると言える。今後も、グループ演習の時間をしっかりと確保した研修を行っていきたい。

③ 所内での学習会

学習会は、本所のセンターの垣根を越えて、道徳科について興味のある小中学校の教員を中心に行った。学習会の目的は二つある。一つは参加者に訪問研修の内容を学校現場の先生の立場になって受けてもらい、そこで出た意見を、研修内容の改善に繋げることである。もう一つは、所員自らが道徳科を学び、「考え議論する道徳」の授業づくりへの意識を高める機会にすることである。学習会は、訪問研修前に1回、10校の訪問研修後に1回行った。以下に、その内容について示す。

○7月18日（木）（90分）本所 参加者20名

研修プラン1の研修を行った。道徳科の概要や授業づくりについて研修した後、「3. 授業づくり（グループ演習）」に重点を置いて検討した。小学校高学年教材「手品師」を用いるグループと、中学校教材「二通の手紙」を用いるグループに分かれて、どのように授業を行うか、どのように発問するかについて話し合った。共有化では、どちらのグループも「教材を最後まで読ませるべきか、途中で切って、話し合いをさせてから続きを読ませるべきか。」で議論が進んだ。参加者からは、「葛藤教材は子どもたちの意見が出やすく、授業がしやすい。」「教材を途中で切って話し合いをさせてから続きを読ませるパターンがよくあるが、続きと反対の立場だった子どものモチベーションが下がってしまうことが課題だ。」など、研修改善に役立つ意見を得ることができた。



○11月6日（水）（90分）本所 参加者23名

研修プラン2の研修を行った。評価の概要について研修した後、「3. 自分が作成した評価文を添削してみよう（グループ演習）」について重点的に検討した。参加者からは、「演習に入る前に指導要録についてなのか、通知表についてなのか、設定をはっきりさせてからの方が良い。」など、研修改善に繋がる意見や、「一人ひとりの成長をしっかりと見取ることの大切さを、改めて実感することができた。」など、学習会が所員の自己研鑽に繋がったという感想を得ることができた。



成果

- グループ演習を含めた研修プランを作成して実践し、特に演習を行った研修では受講者から高い評価を得ることができた。
- 研修プラン1を受講した受講者からの「評価についてもっと詳しく知りたい」という要望から、評価に特化した研修プラン2の作成ができた。
- 所内でセンターを超えて道德教育についての学習会を行い、研修内容の改善に繋げたり、所員の道德教育に対する意識を高めたりすることができた。

課題と今後に向けた取り組み

- 研修内容の改善
 - ・新しい情報、実践からの情報を盛り込むなど、内容を改善していく。
 - ・グループ演習では、教材を事前の一読して頂いたり、授業の「ねらい」については所員が提示したりしたが、「もっと演習の時間がほしい」「演習が長引き最後の評価に関する時間が短い」という意見があった。困っているグループには積極的にアドバイスを行うなど、演習のもち方に工夫が必要である。
- さらなる教材研究

教科用図書には、オープンエンドで終わる教材や、偉人の生き方をエピソードにのせて伝える教材など様々な構成の読み物がある。それぞれの形態の教材で「考え、議論する道德」の授業づくりの研究を行う。
- 道德科の研修の計画的なもち方の提案

学校に対して、研修の時期や回数を持ち方を提案していく。(例えば、5月頃に主に授業づくりについての研修、10月頃に主に評価に関する研修を実施するなど。)

《参考文献》

- 文部科学省（2019）小中学校各教科等担当指導主事連絡協議会 道德部会資料
- 独立行政法人教職員支援機構（2019）令和元年度道德教育指導者要請研修（ブロック別指導研修）【東海・北陸ブロック】資料
- 文部科学省（2018）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道德編
- 文部科学省（2018）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道德編